

淡路の柴右衛門

松下 幹生

その昔 淡路の国に 居たという
身の丈が 六尺ほどの 大狸
満月に 腹をポンポコ 打ち鳴らし
いたずらモンの 愛嬌者で
その名も 淡路の 柴右衛門
変装上手で 狸のくせに 芝居好き

山道で ある日噂に 聞きつけた
大阪の 面白そうな 芝居小屋
観てみたい 行ってもみたいが 金もない
人の姿に 化けまして
お金は 木の葉の 柴右衛門
舟で渡って 大阪中座 たどり着く

味占めて 毎夜毎夜の 見物に
木戸番が 銭箱の葉を 不思議がり
芝居小屋 はねるのを待ち 犬放つ
何も知らずに 小屋を出た
犬たち 気づいた 柴右衛門
帰らぬ狸 哀れ消えたと 祠（ほこら）建つ

三熊の山の 狸の話